



「新郎新婦立ち」も慣れたもの。冬の寒さも吹き飛びそう

佐藤 良和さん(25)  
奈保子さん(25)  
＝江刺区西大通り＝

# 雨の日も晴れの日も

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

平成25年の七夕に入籍し、昨年11月に結婚式を挙げたばかりの佐藤夫妻。「たくさん友人が出席してくれて、とてもにぎやかな式になりました」と、新婚夫婦は幸せいっぱいの笑顔を見せました。二人は小・中学校の同級生。高校は別々の学校に進みましたが、良和さんが部活動中のお見舞いに行ったことがきっかけで交際が始まりました。

「彼女の性格は『明るい』そのもの。いつもニコニコしていて、ずいぶん支えられた」と、良和さんは奈保子さんに惹かれた理由を教えてくださいました。  
高校卒業後、良和さんは大工として(尙)及幸建設に就職。休業期間の5年間はがむしゃらに働き、弟子上がりした年の5月、同棲を始めたその日にプロポーズしました。「指輪を渡されてびっくり」と、その時の気持ちを明かす奈保子さん。手渡されたのは「ディズニー映画のシンデレラがモチーフの指輪で、良和さんは「長い間待ってもらったから」と照れくさそうに笑いました。「ありがとう」を言葉にするのが夫婦円満の秘訣という佐藤夫妻。「寒い日も暑い日も仕事を頑張ってくれてありがとう。いつかマイホームを建ててね」と奈保子さんがほほ笑むと、良和さんは「任せて」と優しく答えていました。

新年明けましておめでとうございます。皆様には新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。  
昨年プロ野球・日本ハムの大谷翔平選手、モデルの久慈暁子さんの活躍が本市に元気を与えてくれました。その二人と12月7日に新春鼎談を行いました。(内容は今月号の特集記事をご覧ください)  
成人を迎えられたお二人には確かな目標と、それに向かって努力を重ねる強い意志がありました。本市の全ての新成人にも、夢に向かって全力で突き進んでほしいと心から願っております。  
昨年経営破綻した東北油化の死亡牛と残さの処理問題が解決に向けて一歩前進しました。昨年12月に東北化製事業協同組合が89頭の死亡牛を県外の処理業者に搬出しました。



しかし、施設内にはまだ残さが残っていることから、県と連携して業者に対し速やかな処理を働きかけ、早期解決に向け努力してまいります。  
12月の定例議会において、第三セクター等改革推進債(三セク債)を繰り上げ償還するための10億円を減債基金から取り崩すことが決まり、3月に繰上償還を実施します。三セク債は、24年度に旧市土地開発公社の解散に伴い市が起債したもので、当初の起債額は86億6千万円でした。繰り上げ償還後の残高は約65億8千万円で、2年で20億8千万円を返済することになります。引き続き旧公社から市が取得した土地の売却に努めるなど、三セク債の残高を減らしてまいります。  
ことしは羊年です。群れをなす羊は家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味しています。山積する難題に奥州市が一つの「家族」となって立ち向かい、乗り越える年となるよう全力で取り組んでまいります。

奥州市長 小沢昌記

# 夢トーク 52 将来の夢は「プロ野球選手」



かくだて のぞみ 希海 くん  
(水沢区・水沢南小学校6年)

Interview

—学校の役割は？  
保健委員会で、みんなが健康に過ごせるように活動をしています。ポスターを描いたり、健康かるた大会やクイズ大会を企画したりしています。  
—好きな教科はなんですか？  
社会科が好きです。歴史など、学校で勉強したことがテレビで放送されると楽しいです。最近では公共施設の勉強をしました。  
—いちばんの思い出は？  
プロ野球の楽天対日本ハムの試合で、辛島選手の\*スターティングキッズを務めたことです。  
※スターティングキッズ…試合開始前に、守備に就く選手と一緒にグラウンドに登場する子ども

「頑張ってください」と言ったら、笑顔で「はい」と答えてくれました。その試合では、大谷選手の16奪三振を見ることもできました。  
—将来の夢を教えてください。  
プロ野球選手です。目標は大谷選手。打撃でも守備でも活躍できる選手になりたいです。  
—夢を叶えるために、どんなことを頑張っていますか？  
スポ少の練習のほかに、毎日素振りなどをしています。苦手だった外角の球を打てるようになりました。中学校でも、レギュラーを目指して頑張ります！

中高生の部活動や委員会活動を紹介

# 青春讃歌 16

南都田中学校  
男子バスケットボール部

- ◎部員数 20人
- ◎顧問 伊豫部 江美 先生
- ◎主将 高橋 拓暉 君(2年)
- ◎部長 千田 禎喜 君(2年)



## ダークホースとして県南優勝を狙う

「3位はもういない——」。11月8日、9日の両日に開催された、県中学校バスケットボール選抜大会の胆江地区予選を通過し、県南ブロック大会への出場を見事手にした南都田中学校男子バスケットボール部。しかし、部員たちは誰一人として、その結果に満足していませんでした。  
地区予選の代表決定戦、対戦相手はいつもなら勝っていたものの、徐々に追いつかれ、最後は2点差で逆転負けを喫しました。「追い付かれて弱気になってしまったし、何より序盤に油断してしまった」と、試合を振り返り厳しい表情を見せる部長の千田君。賞状に記された「3位」の文字に、複雑な思いを抱きました。「新人戦も3位、1年生大会も3位。もっと

上位になりたい」と、強い思いを募らせます。「普段から行動の遅さやコミュニケーション不足を指摘している。そういう部分が試合に出てしまったのでは」と話すのは、顧問の伊豫部先生。最近では、チームプレーを考えて声を出すなど、意識改革に取り組んでいるといいます。  
主将の高橋君は「僕たちは第4代表なので、県南ブロック大会では他の地区の第1代表と当たる。挑戦者の気持ちで臨み、ダークホースになる」と「優勝」を示唆。自慢のスピードと元気の良さを武器に、「3位返上」を誓います。



息の合ったプレーには声掛けが必須